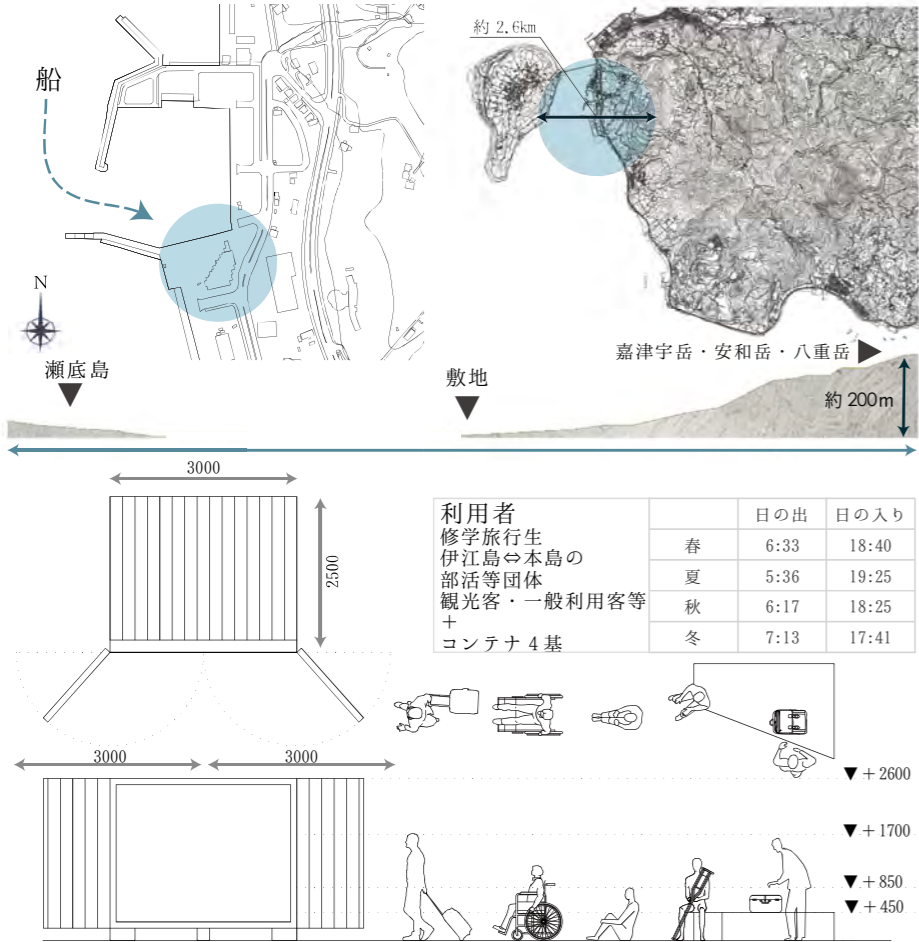


本部港は背後に八重岳をはじめとする連山が構え、正面に瀬底島を望み、伊江島・鹿児島への経由地としての海の駅となっています。自然に囲まれたこの地に構える建築物として、次の3つの視点が重要であると考えました。

- 敷地を覆い、かげをつくる  
まず、直射日光が降り注ぐこの待機場所を覆うことを考えました。一つ一つの屋根で敷地を覆い、包むことにより、多くの影をつくり出します。
- 回遊性とたまり場  
一度に多くの人々が利用するこの施設で、人が流動する場とたまり場を計画します。
- 柔軟な空間  
屋根の高さによって空間を緩やかにつなぎます。また、柱をなくし、コンテナの出し入れが安全に行える柔軟な空間とします。

敷地・利用者について



施設内より瀬底島を望む  
一度に多くの人々が利用するこの施設では、壁がたまり場の機能を持ち、壁と壁の間より人が流れる。それにより、たまり場と流れる場がゆるやかに分離される。



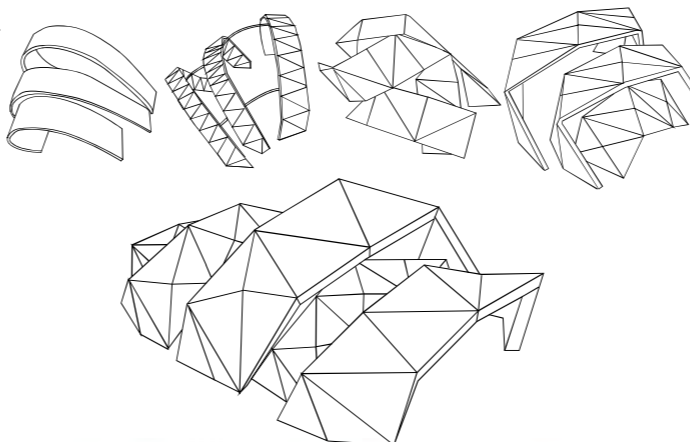
TRES+ANGULUS  
トライアングル

プロセス

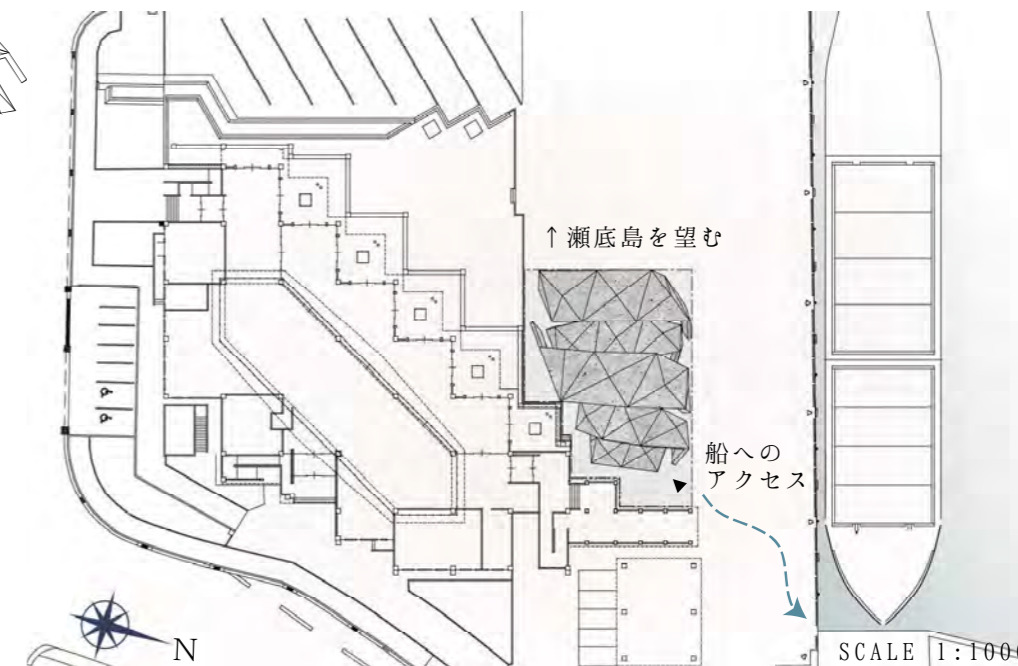
1. 敷地を覆い、かげをつくる

まず、直射日光が降り注ぐこの待機場所を覆うことを考えました。右の図のように模型をつかいつつ検討しました。最終的に5枚の屋根で構成します。一つ一つの屋根で敷地を覆い、包むことにより、多くの影をつくり出します。

日の移り変わりを考える  
下図は敷地に3Dモデリングした建築物を置き、日の移り変わりを検討したものです。伊江島と本島をつなぐフェリーは一日4便で、朝～夕方にかけて明るさを保ちながら影をつくりだす配置計画としました。

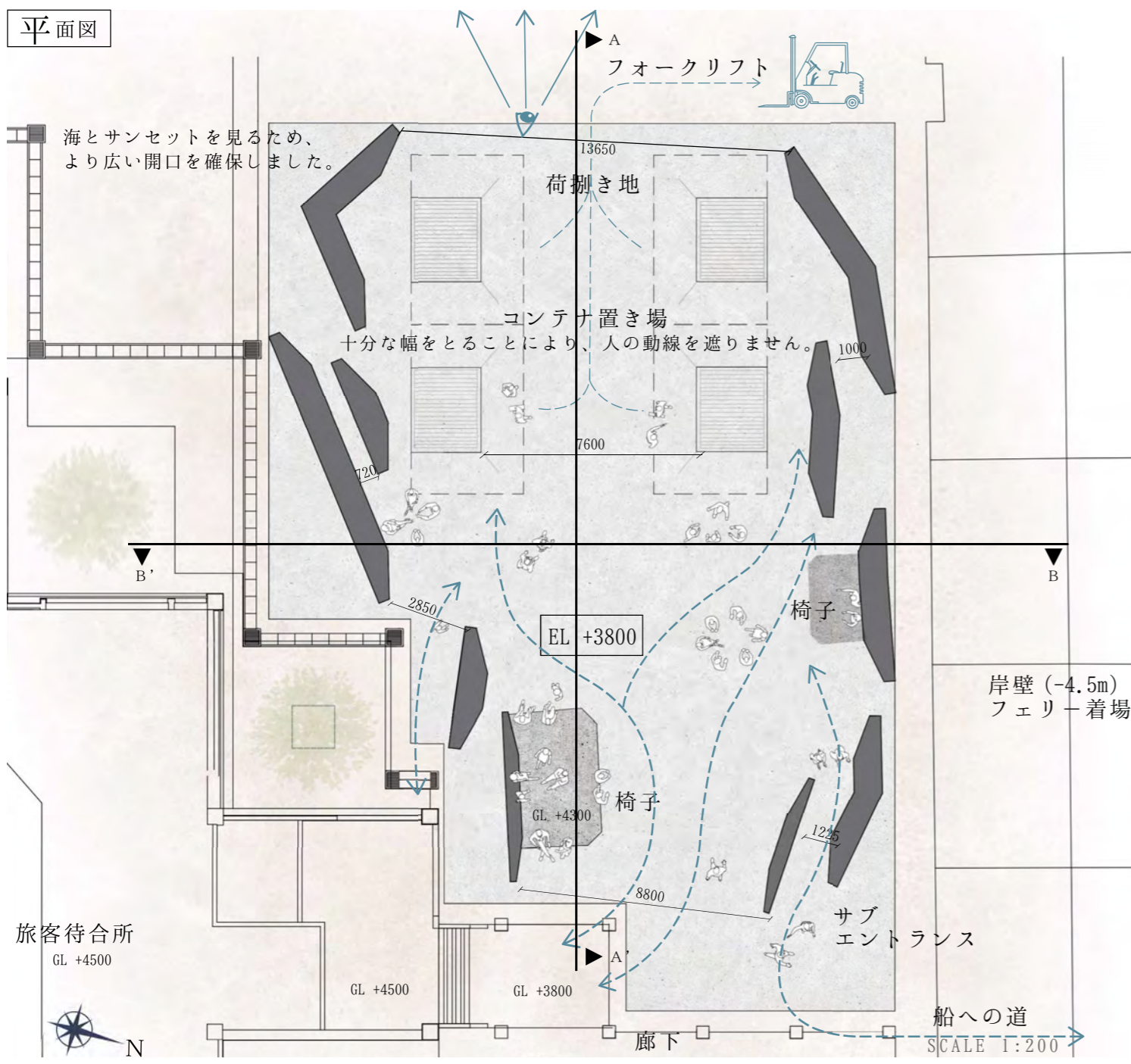


配置図



船上から「トライアングル」を眺める

平面図



海とサンセットを見るため、より広い開口を確保しました。

十分な幅をとることにより、人の動線を遮りません。

EL +3800

GL +4300

旅客待合所  
GL +4500

GL +4500

GL +3800

岸壁(-4.5m)  
フェリー着場

船への道  
SCALE 1:200

2. 回遊性とたまり場

一度に多くの人々が利用するこの施設で、人が流動する場とたまり場を計画します。計画するにあたり、次のことを重視しました。

回遊のため、壁と壁の間に距離をとる。壁と壁の間に距離をとることにより、人の流れだけでなく、風の流れもつくり出すことができます。

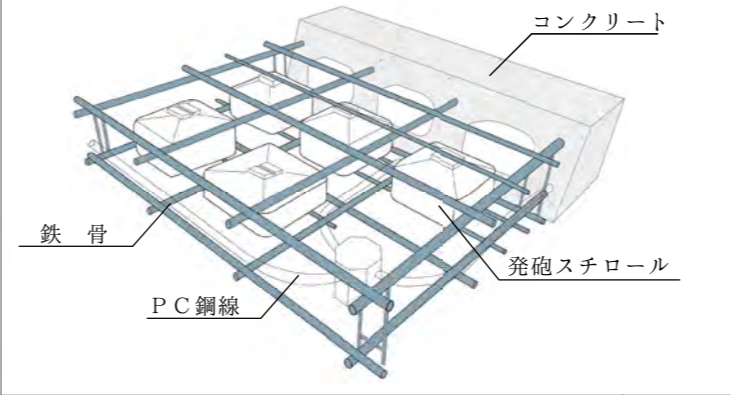
フォークリフトの入口と人の入口を分けることにより安全性を確保。今回の計画では、フォークリフトの入口を海側に設置し、人の入口を施設側に設けました。屋根の高さ・開口の大きさを分けつつ、徐々に建物高さをあげることで、ゆるやかにつながり計画しました。



海側より「トライアングル」をみる  
サンセットをのぞむ。様々な角度に向いている壁と屋根は毎時間違う表情をつくりだします。

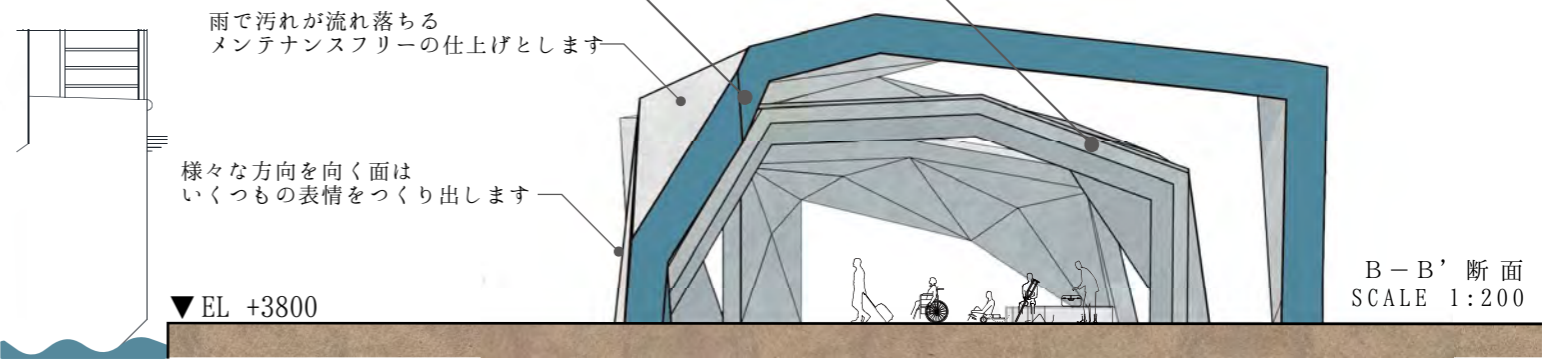
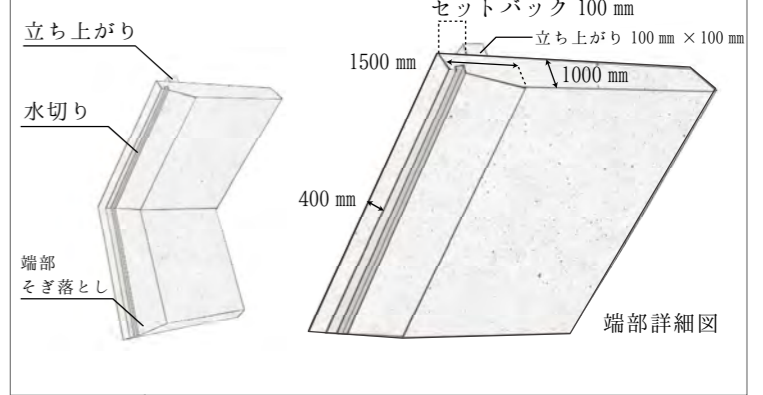
鉄筋コンクリート中空ボイドスラブ工法

多くのコンクリートを使用する本計画では、この工法を使用することにより、コストダウン・軽量化を図ります。



屋根・壁末端詳細図

壁・屋根の末端では、コンクリートをそぎ落とし、軽く、そして建築物内部が明るくなるようにします。



B-B' 断面  
SCALE 1:200

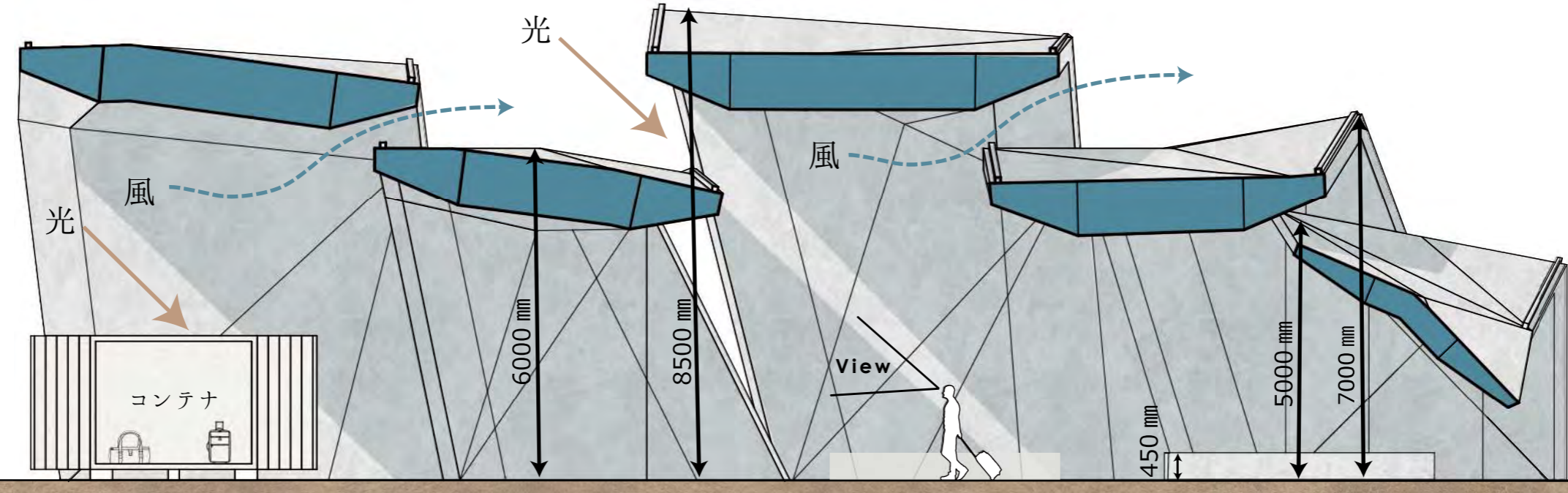
断面図

3. 柔軟な空間

屋根の高さの違いによって空間を緩やかにつなぎます。さらに、コンテナ置き場、待機場所として、柔軟な空間とするため、次のことを重視した断面計画しました。

柱をなくし、コンテナの出し入れが安全に行える。柱をなくす計画とし、フォークリフトが安全に走行できる計画しました。

屋根の高さを徐々にあげる。屋根の高さを海側に向かって徐々にあげることで、人の入口である施設側からは開放的な空間が広がるようにしました。



建築概要

- 構造形式：鉄筋コンクリート中空ボイドスラブ工法
- 建築面積：460㎡
- 最高高さ：8.5m
- 仕上げ：床  
コンクリート刷毛引き  
屋根・壁  
外壁防水塗膜
- 地盤改良：浅層改良  
液状化を防ぐため、建築物基礎部分深さ5mを浅層改良

A-A' 断面  
SCALE 1:100

